【第１回】

横須賀港 浅海域保全・再生研究会

日時：平成24年(2012年) 7月23日 (月)
会場：横須賀市役所　301会議室

横須賀市　港湾部

目　次

1．研究会の概要　・・・・・・・・・・・　3

1-1　研究会の背景及び目的・・・・・　4
1-2　検討内容・・・・・・・・・・・・・　5
1-3　スケジュール・・・・・・・・・・・　6

2．横須賀港の概要　・・・・・・・・・・　7

2-1　横須賀港の概要・・・・・・・・・・　8
2-2　横須賀港の水際線の特徴・・・・　9
2-3　港湾環境計画でのエリア設定・・　10
2-4　横須賀港の現状・・・・・・・・・・　11

3．横須賀港の環境保全・
再生への取組み・・・　17

3-1　深浦海岸再生事業・・・・・・・・　18
3-2　追浜に“浜”を取り戻す活動・・　19
3-3　その他（ｴｺﾎﾟｰﾄ事業）の取組み・　20

4．浅海域保全・再生の基本方針　・　21

4-1　環境基本計画での位置付け・・・　22
4-2　港湾計画での位置付け・・・・・　23
4-3　港湾環境計画での位置付け・・・　24
4-4　浅海域保全・再生事業について・　26

5．浅海域保全・再生の事例　・・・　28

5-1　三河湾シーブルー事業・・・・・　29
5-2　大森ふるさとの浜辺整備事業・・　30

6．今後の進め方・・・・・・・・・・・　31

6-1　今後の検討事項及び調査項目・・　32
6-2　ご意見をいただきたい点・・・・　33

参考意見　・・・・・・・・・・・・・・・　34

1.　研究会の概要

2.　横須賀港の概要

3.　横須賀港の環境保全・再生への取組み

4.　浅海域保全・再生の基本方針

5.　浅海域保全・再生の事例

6.　今後の進め方

1-1　研究会の背景及び目的

●横須賀港は自然海岸や緑に恵まれ、親水性の高い水辺空間を有する。
●一方、沿岸には人工護岸が多く、人々が海に触れられる空間が限られる地域もある。
●陸域からの負荷に伴う水質・底質の悪化や生物生息環境の劣化が見られる。

海の魅力の向上　　貴重な自然の保全　　東京湾環境再生

・横須賀市環境基本計画（2011～2021）
　⇒ リーディングプロジェクト 「よこすか海辺環境保全・再生プロジェクト」
・横須賀港港湾環境計画（中間評価報告2011.11）
　⇒ 重点施策 「人々が海に親しめるよう、浅海域の再生を進めます」

横須賀市議会からの提案
（浅海域保全・再生の推進）

浅海域保全・再生事業

本研究会の目的

横須賀港において、浅海域保全・再生事業を実施するにあたり、効果的な場所の選定、利活用の方法、整備方法及び課題等を検討することを目的とする。

1-2　検討内容

左記の項目を検討していく中で、効果的な浅海域保全・再生の可能性を検討する。

①財政的、技術的に可能な、浅海域（干潟、砂浜等）の保全・再生
②工業用地や防衛施設用地等の制約を踏まえたパブリックアクセスの確保
③横須賀港の波浪状況を考慮した浅海域の設定
④市民にとって有効に機能する親水性の確保
⑤港湾環境計画における再生・活性・共生を踏まえた浅海域の保全・再生

1-3　スケジュール

平成24年度

第1回研究会　(H24.7)

- 浅海域保全・再生の基本方針
- 今後の検討事項及び調査項目の抽出

第2回研究会　(H24.10)

- 利活用方法の検討

第3回研究会　(H25.1)　（候補地視察）

- 整備候補地の列挙と各地の特性整理
- 工法の列挙と各工法の特性整理

平成25年度

第4回研究会

市民アンケート調査

- 市民意見聴取を踏まえた計画・整備場所の検討
- 検討会に向けた調査項目の抽出

第5回研究会

- 財源の検討
- 各関係団体・地域の行動に関する検討

第6回研究会

- 意見書、報告書の作成検討

平成26年度以降

検討会の設置・開催（平成26～27年度）

- 設計外力を踏まえた構造・規模の検討
- 費用対効果の検討
- 施工方法の検討
- 行動計画の検討
- 環境モニタリング計画の検討

各種調査（波浪、流況、水質、底質、生物、漂砂等）

国への予算要求　（平成28年度）

事業着手　（平成29年度）

1.　研究会の概要

2.　横須賀港の概要

3.　横須賀港の環境保全・再生への取組み

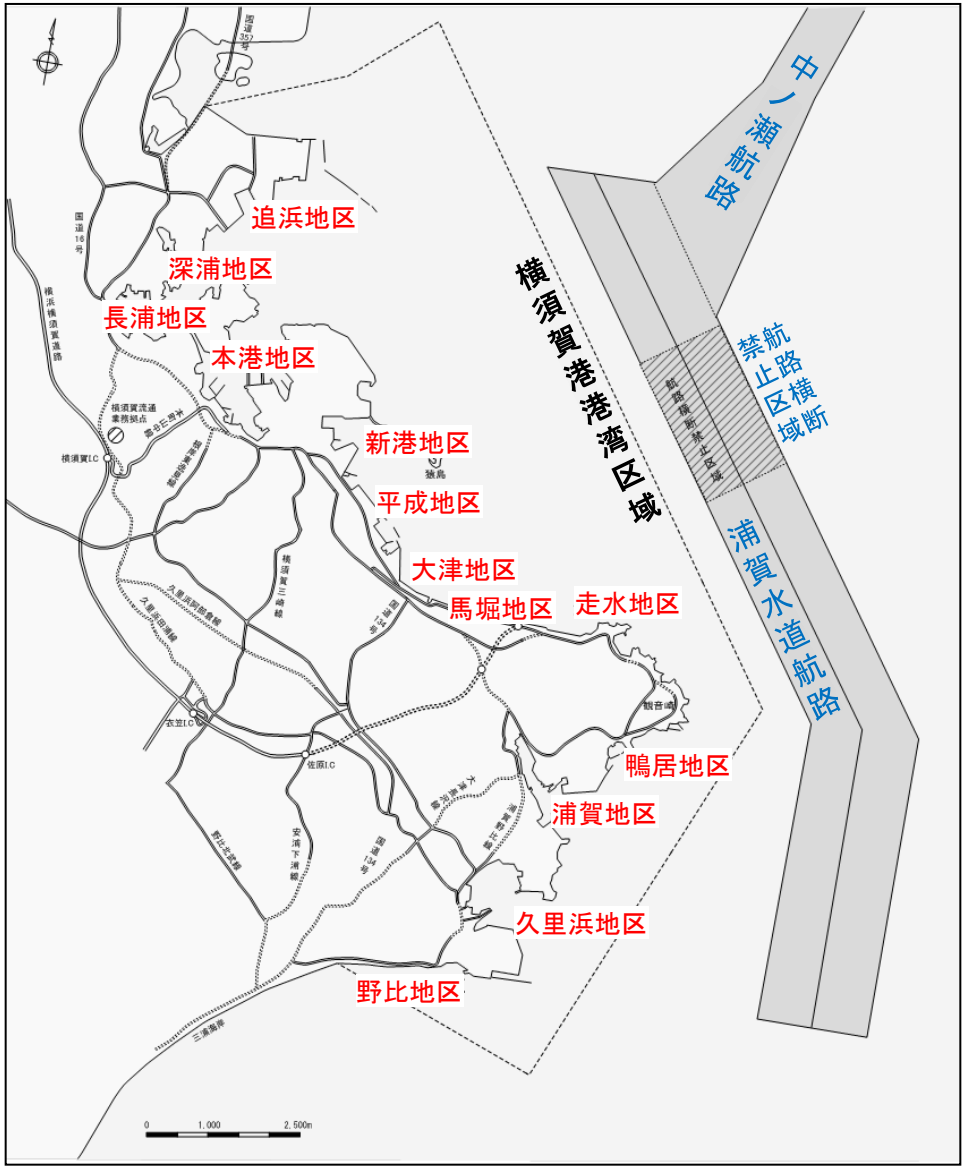
4.　浅海域保全・再生の基本方針

5.　浅海域保全・再生の事例

6.　今後の進め方

2-1　横須賀港の概要

- 追浜から野比に至る13地区で構成
- 長い海岸線に物流、人流、生産、緑地・レクリエーションの各機能が点在
- 工業港、商港、漁港といった多様な性格を併せ持つ
- 東京湾入口に位置し、浦賀・久里浜地区は浦賀水道航路を通らず入出港可能
- 東京湾他港と比較して、自然海岸を多く有する



2-2　横須賀港の水際線の特徴

2-3　港湾環境計画でのエリア設定

横須賀港の環境には地域的な違いがあるため、地域の環境や特性に合わせた、地域ごとの基本方針を設定

再生のエリア基本方針

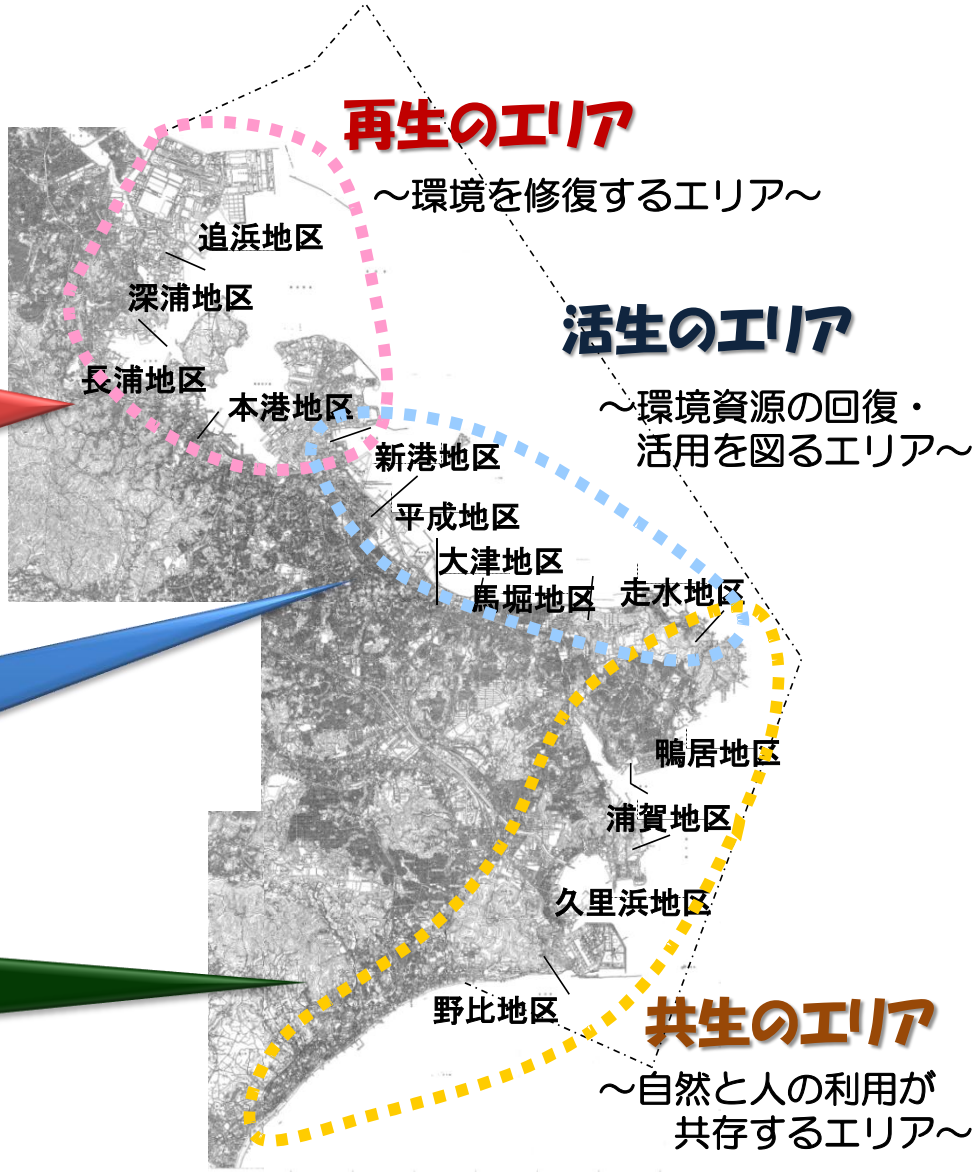
- ➢水辺空間の開放
- ➢自浄機能や生物生息環境の向上
- ➢エリア内の環境再生

活生のエリア基本方針

- ➢海域環境の修復
- ➢現存海岸等の維持・修復
- ➢海に親しむ活動の場として活用

共生のエリア基本方針

- ➢港湾利用との調整を図った保全
- ➢自然を体感する場として活用
- ➢環境の復元・修復



2-4　横須賀港の現状（再生のエリア）

（1）追浜地区リサイクルプラザ　アイクル前面海域

「追浜に“浜”を取り戻す活動」の対象エリア

第3海堡兵舎展示

周辺の状況

国道357号の延伸予定路線

アイクル

背後地の状況

企業の立地

ドッグラン

2-4　横須賀港の現状（再生のエリア）

（2）本港地区ヴェルニー公園前面海域

背後地の状況

周辺の状況

2-4　横須賀港の現状（活生のエリア）

（3）平成地区うみかぜ公園前面海域

背後地の状況

うみかぜ公園

駐車場

周辺の状況

第3海堡兵舎展示

猿島の眺望

2-4　横須賀港の現状（活生のエリア）

（4）走水（伊勢町）地区前面海域

背後地の状況

海水浴場

周辺の状況

天然の磯場

漁業施設

国道16号

（5）鴨居地区観音崎大橋前面海域

背後地の状況

民有護岸

砂浜

周辺の状況

観音崎大橋

比較的透明度が高い

2-4　横須賀港の現状（共生のエリア）

（6）浦賀地区燈明堂海岸前面海域

背後地の状況

砂浜（護岸上は駐車場）

公園

周辺の状況

天然の磯場

燈明堂

1.　研究会の概要

2.　横須賀港の概要

3.　横須賀港の環境保全・再生への取組み

4.　浅海域保全・再生の基本方針

5.　浅海域保全・再生の事例

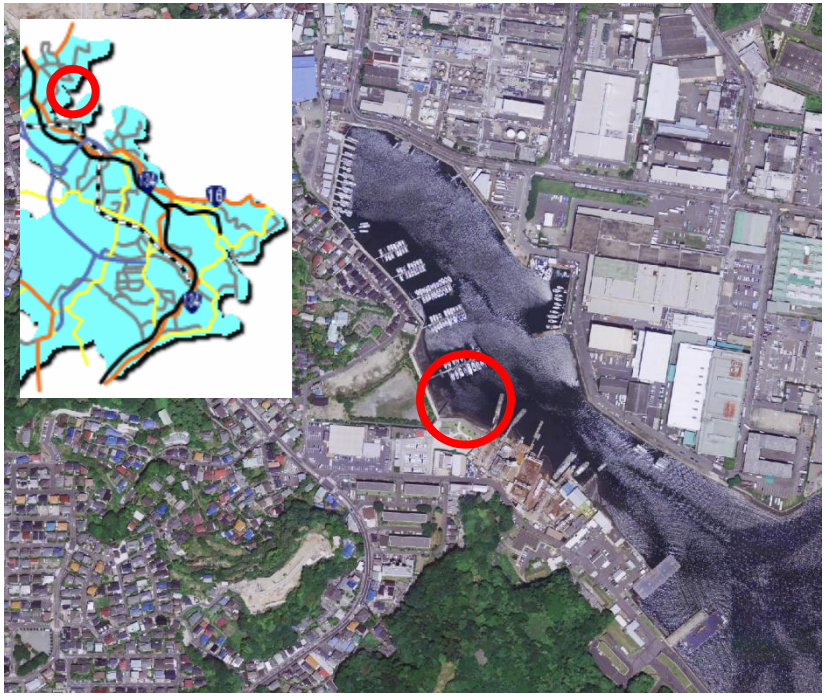
6.　今後の進め方

3-1　深浦海岸再生事業

（1）事業概要

深浦ボートパーク付近の浅瀬にアマモ場の海岸再生が可能かを検討。

市民が活用できる水辺空間を形成するため、市が提案したアマモの生息環境の適正調査・実験を市民団体の協力を得ながら実施。



（2）実施状況及び結果

平成21年度　：　底生生物分析、地形調査
平成22年度　：　アマモ移植実験
平成23年度　：　底質調査
（夏季：H23.9　冬季：H24.2）

実験施設の設置

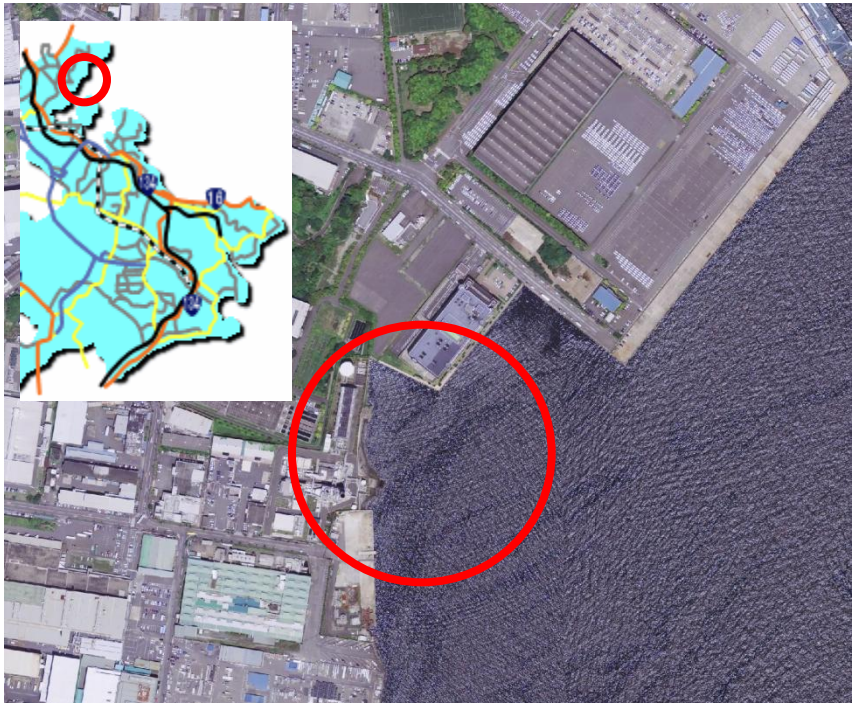
実験施設に移植したアマモ

- **海底に移植したアマモは浮泥等により流され根付かなかった**
- **底質調査の結果、現状の底質はアマモの生育には好ましくない**

3-2　追浜に“浜”を取り戻す活動

（1）活動の概要

市民による、天然のアマモ場からのアマモ苗の採取及び追浜の海への移植



（2）実施状況及び結果

追浜地区での
アマモの採取

アマモの苗床づくり

●市民団体によるアマモの移植活動の結果、移植による着生を実証

3-3　その他（エコポート事業）の取組み

よこすかうみかぜカーニバル

①平成９年度～
②うみかぜ公園において無料乗船体験（エンジン付きゴムボート、バナナボートなど）
③マリンスポーツを楽しむ機会の提供、海のマナーと安全の啓発

スノーケル体験事業

①平成18年度～
②走水海岸において小学生を対象としたスノーケル体験を実施
③海の生き物観察会、網引き体験も実施

シーカヤック体験事業

①平成18年度～平成22年度
②浦賀港において小学生を対象としたシーカヤック体験を実施
③浦賀港の自然や歴史を楽しみながら学習

「よこすか海の専門ガイド」の養成

①平成24年度～
②横須賀の海の魅力を伝える「ガイド」を養成
③スノーケル、シーカヤック、生き物観察などのガイド

1.　研究会の概要

2.　横須賀港の概要

3.　横須賀港の環境保全・再生への取組み

4.　浅海域保全・再生の基本方針

5.　浅海域保全・再生の事例

6.　今後の進め方

4-1　横須賀市環境基本計画での位置付け

（1）基本計画の体系

環境像

魅力ある環境を守り、育み、未来へとつなぐ持続可能なまち　よこすか

基本目標

1　自然環境の保全と創出をはかり、人々がゆたかな自然の恵みを実感できるまちをめざします

施策の分野／項目

(2)水辺環境の保全・創出と運用

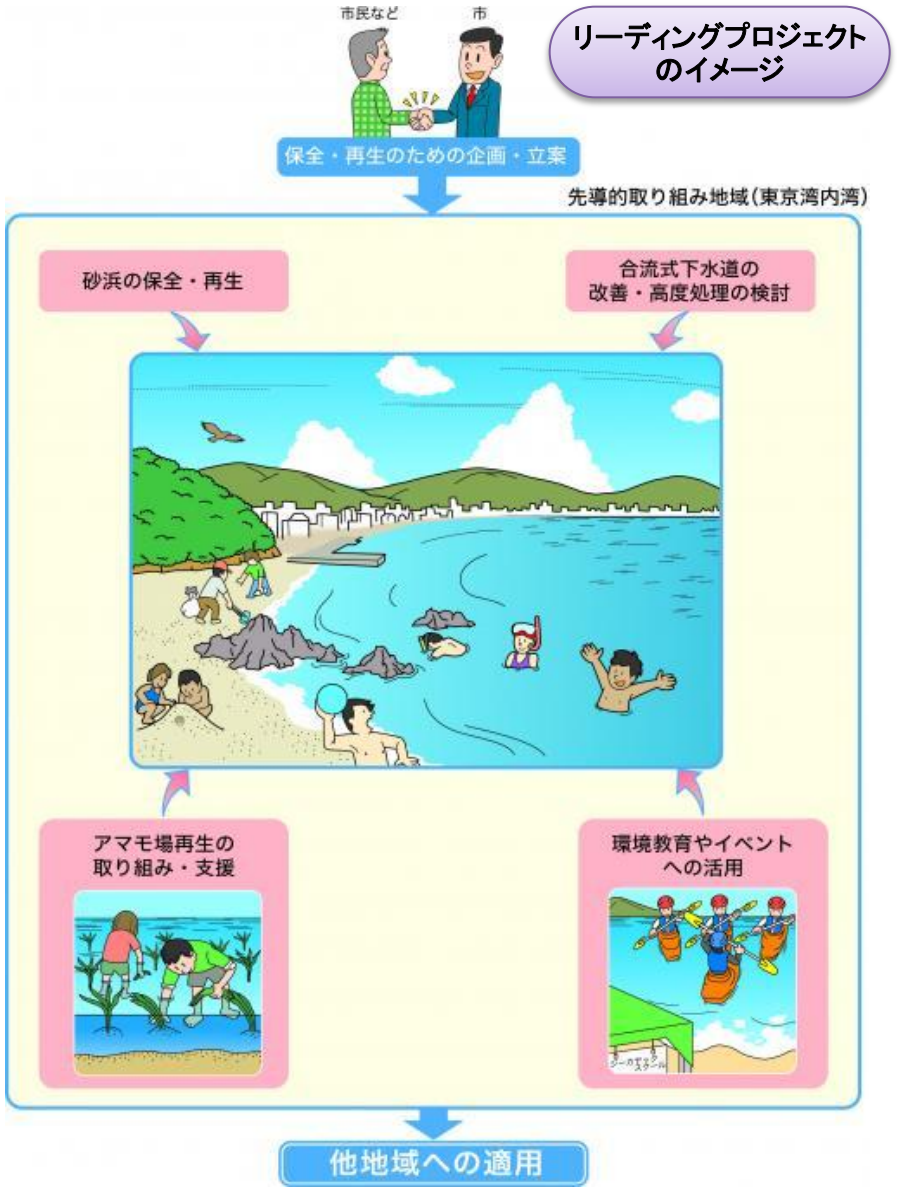
②海域環境の保全と創出
③水とのふれあいの推進

（2）リーディングプロジェクト

「よこすか海辺環境保全・再生プロジェクト」

干潟や藻場などの浅海域の保全や再生を推進し、海の自浄能力を高めることを目指す。

観光客も含めた交流人口増加や、ふれあいの場の創出を推進する。



4-2　横須賀港港湾計画での位置付け

（1）港湾計画の基本理念（抜粋）

横須賀港は、大規模港湾が集積する東京湾にあって、これらの港湾との適切な機能分担のもと、その個性を最大限に活かして、首都圏経済の活力の維持・向上に貢献していくとともに、豊かな自然との共生を目指す。

（2）港湾計画の方針（抜粋）

港湾における快適な環境の創出を図る親水空間の充実及び地域住民等の交流に寄与する交流空間の形成を図る。

東京湾内で貴重となった自然環境や横須賀固有の歴史・文化を保全するとともに、海域環境の再生を図る。

（3）港湾環境整備施設計画（抜粋）

緑地、海浜整備を行い、大津地区から走水地区に至る約3kmの連続した水際線の開放、生物の多様性への配慮、海とふれあう場、憩いの場の創出及び良好な景観の形成を図る。

4-3　横須賀港港湾環境計画での位置付け

（1）港湾環境計画について

横須賀市環境基本計画（2011～2021）

横須賀市の環境行政のマスタープラン

➢**環境像**

『魅力ある環境を守り、育み、未来へとつなぐ
持続可能なまち　よこすか』
～水とみどりにゆたかにふれあえる住みよいまちをめざして～

➢**基本目標**

自然環境の保全と創出をはかり、人々がゆたかな自然の恵みを実感できるまちをめざします

港湾法

横須賀港港湾計画

港湾の利用・開発・環境の保全を定めています

港湾計画の環境施策を補完し、実践する計画が必要

○多様な環境を保全するため、ハード・ソフト両面の取り組みが必要です
○環境は、市民の視点に立つこと、意見を聞くことが大切です

海域に係る分野別計画

環境政策の充実と推進

市民と協働で策定する「横須賀港港湾環境計画」

横須賀港沿岸域の利用と環境の調和を図り、海の魅力を向上させるとともに、貴重な自然を未来に引き継ぎ、東京湾の再生に寄与することを目指します

4-3　横須賀港港湾環境計画での位置付け

（2）港湾環境計画の基本理念

市民との協働による「エコタウンポート」の形成

（3）６つの基本理念

1. 市民協働による推進
2. 利用と環境の調和
3. 快適な生活環境の形成
4. 海の環境再生
5. 活力あるまちの創造
6. 横須賀ブランドの活用

（4）今後の施策推進の方向性【中間評価(平成23年11月)より】

■重点施策１

人々が海に親しめるよう、浅海域の再生を進めます。

■重点施策２

港湾区域における人々の憩いの場として港湾緑地の整備を推進します。また、港湾施設の利活用や水辺空間の開放を進めます。

■重点施策３

市民・市民団体や事業者との協働、あるいは、役割分担によりエコポート事業を推進します。また、人々が海に親しめる場の提供やこのために必要なガイドなどの人材の育成を進めます。

4-4　浅海域保全・再生事業について

（1）浅海域の保全・再生が必要な理由

◆市民意識（市民アンケートより）

・横須賀の魅力は、「海や緑などの自然環境に恵まれている」：8割（1位）
・≪きれいな海や山が残っている様子≫は、「悪くなった」：5割（1位）
・小中学生が考える≪望ましい横須賀の将来の都市像≫は、
「海や緑などの自然が豊かなまち」：6割（1位）

◆横須賀市の海辺の現状

・宅地などの造成に伴う埋立てにより浅海域が喪失している
・侵食により砂浜が消失している
・富栄養化による赤潮の発生等、海域環境の悪化がみられる

⇒　横須賀市の魅力である海と触れ合える場の創出、良好な海辺環境の保全・再生が必要である

（2）浅海域保全・再生事業の目的

① 海を身近に感じ、海に直接触れ合える環境の創出
② 良好な海辺環境の保全･維持
③地域や地域経済の活性化（交流人口の増加など）

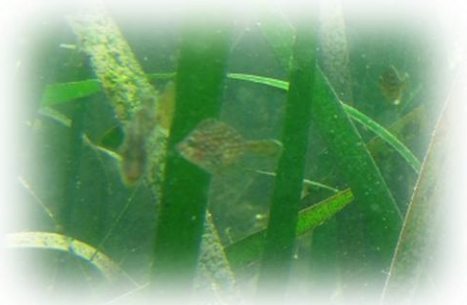
（3）浅海域保全・再生事業の基本方針

① 海を身近に感じ、海に直接触れ合える環境の創出

・市民が容易に水際線に近づくことができ、憩いの場、活動の場として利用できる親水空間を創出する

・海に関するイベントの開催や環境教育・環境学習の場として利活用できる空間とする

② 良好な海辺環境の保全･維持



・選定した海域の環境特性に応じた整備方法を選定し、効果的、効率的な海辺環境保全・維持を図る

③地域や地域経済の活性化（交流人口の増加など）

・アクセスが容易（公共交通機関や高速道路ICから近い）であり、市内外からの来訪者の増加が期待できる環境整備を行う

・浅海域の保全・再生に合わせ、市民・市民団体や事業者との協働、役割分担によって地域が一体となり行動することで、地域や地域経済の活性化、市民生活の向上を図る

1.　研究会の概要

2.　横須賀港の概要

3.　横須賀港の環境保全・再生への取組み

4.　浅海域保全・再生の基本方針

5.　浅海域保全・再生の事例

6.　今後の進め方

5-1　三河湾シーブルー事業

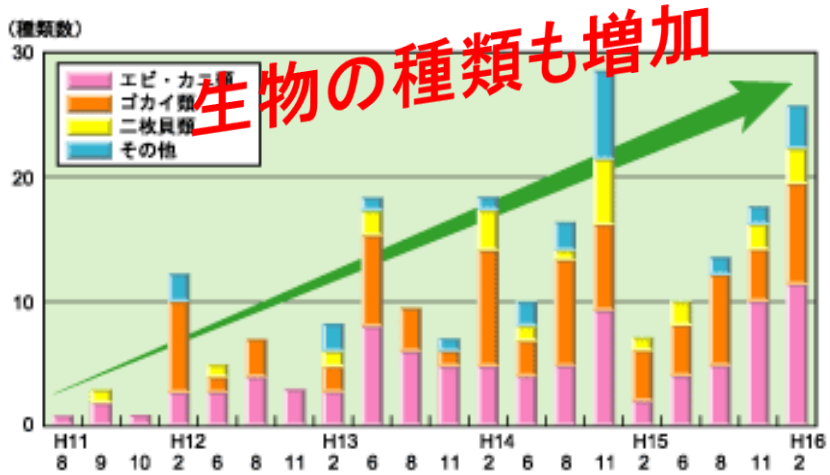
事業概要

湾口部の中山水道航路の整備により発生した浚渫土砂（620万m³）を利用しての覆砂と人工干潟、浅場の造成による海域環境の改善

整備期間：平成10年（試験造成開始）
　　～　平成16年（航路整備完了）
造成規模：39箇所、約620ha
　（干潟：約250ha　浅場：約100ha　覆砂：約270ha）

整備効果

生物変化グラフ［底生生物種類数の経年変化　西浦地区］



（国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所ホームページより）

5-2　大森ふるさとの浜辺整備事業

事業概要

旧大森海岸において、かつての干潟や浜辺を再生すること、防災拠点・親水の場を整備することを目的として実施

整備期間：平成12年（工事着手）
～　平成16年（工事しゅん工）
造成規模：埋立面積　5.0ha、
人工干潟：1.0ha　人工海浜：1.2ha

（大田区　大森ふるさとの浜辺公園 利用案内より）

1.　研究会の概要

2.　横須賀港の概要

3.　横須賀港の環境保全・再生への取組み

4.　浅海域保全・再生の基本方針

5.　浅海域保全・再生の事例

6.　今後の進め方

6-1　今後の検討事項及び調査項目

（1）利活用方法に関する整理　（第2回研究会に向けて）

①横須賀港の課題の整理（浅海域整備により解決したい課題）
②利活用方法に関する市の考え

（2）候補地の特性整理　（第3回研究会に向けて）

③環境特性の整理
　　＜水質の状況、底質の状況、生物生息状況、海底地形の状況＞
④外力特性の整理
　　＜風特性、波浪特性、流況特性＞
⑤社会特性の整理
　　＜アクセス、地域の特性、観光資源＞
⑥横須賀港の課題への対応
⑦候補地の視察（研究会と同日に実施）

（3）工法の特徴整理と事例収集　（第3回研究会に向けて）

⑧長所、短所、効果、経済性、利活用方法、問題点

（4）調査項目の抽出（平成25年度実施）

⑨市民アンケート調査　（第4回研究会で結果報告予定）
⑩事例視察調査　（東京湾、三河湾、等）

6-2　ご意見をいただきたい点

1. 研究会での検討内容
　　及び進め方（スケジュール）について

2. 浅海域保全・再生の基本方針について

3. 今後の検討事項及び調査項目について

参考意見

よこすか自然環境セミナー
（平成24年6月30日13:00～、ヴェルクよこすか６Ｆホール）

海辺環境に関する主な意見

1　単なるハード的な再生ではなく、人の活動がなされる環境を。海辺は適度に人の手が入り込むことで生物相も活性化していくと思われる。

2　海の再生にはアマモが必要。

3　市民がアクセスしやすい、自然環境であってほしい。

4　海の自然環境は、「海浜」だけではなく、「磯」や「人工公物」でさえも、そのひとつと思う。既存の「人工公物」も、環境教育や親水といった環境を守る意識付けに活用できる。

5　自然に手をつけるべきか迷っている。自然は自然に。

6　長期スパンの検討、長期的対応ができる体制づくりが重要。

7　ボランティアだけでは限界があるため、継続的に取り組める指導者の育成と支援が必要。

ご清聴ありがとうございました

横須賀市港湾部

【事務局】　横須賀市 港湾部 港湾企画課　港湾計画係
TEL：046-822-9464　FAX：046-826-3210
E-mail：pp-ph@city.yokosuka.kanagawa.jp